

令和6年度第2回 静岡県立伊豆の国特別支援学校
伊豆下田分校学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和6年11月15日(金)午前9時30分から11時00分まで

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校 図書休養室

3 参加者
学校運営協議会委員

氏 名	所 属 等
高橋 栄彦	広岡西区 区長
黒田 恵美	伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校PTA会長

学校教職員

職 名	氏 名	所 属 等
校 長	松本 仁美	
副校長	廣瀬かよ子	
部主事	鈴木 雅枝	小学部
部主事	鈴木 理史	中学部
防災課長	増田 隼人	小学部

4 内 容

- (1) 校内見学・授業参観
- (2) 校長挨拶
- (3) 協議テーマ『地域と共に取り組む防災』
- (4) 連絡

5 議事録

・校長挨拶

政治や国際情勢が混乱している。そのような中でも、目の前の子供たちの学校生活を大切に、今年度末やこれからにつなげていきたい。

「学力喪失」という本を読んでいる。学校の在り方などを考えさせられる。

防災に関しては、形にとらわれたり行政頼みだったりではなく、みんなが幸せになるためにすべきことを考えて取り組んでいきたい。

・協議 テーマ『地域と共に取り組む防災』

マニュアルと防災の取り組みを説明。以下の課題についてディスカッション

- ①学校の訓練では避難できていても、実際に地震が起きた時、避難場所(春日山)への避難がスムーズにできるか。備えとしてできることは何か。
- ②現在の地震発生時のマニュアル「避難場所(春日山)へ避難 ⇒津波の恐れがなくなったら校舎に戻って保護者引渡しまたは学校で過ごす」
 - ・春日山で、一定時間過ごすために必要なものや対策
 - ・春日山から校舎に戻れない状態の時の具体策や必要な対応
- ③実際に地震が起きた時は、小学校、地域の方や観光客も、一緒に避難する。
伊豆下田分校が、防災対策で地域住民の方と一緒に取り組める活動や取り組みのアイディア。

別紙板書参照

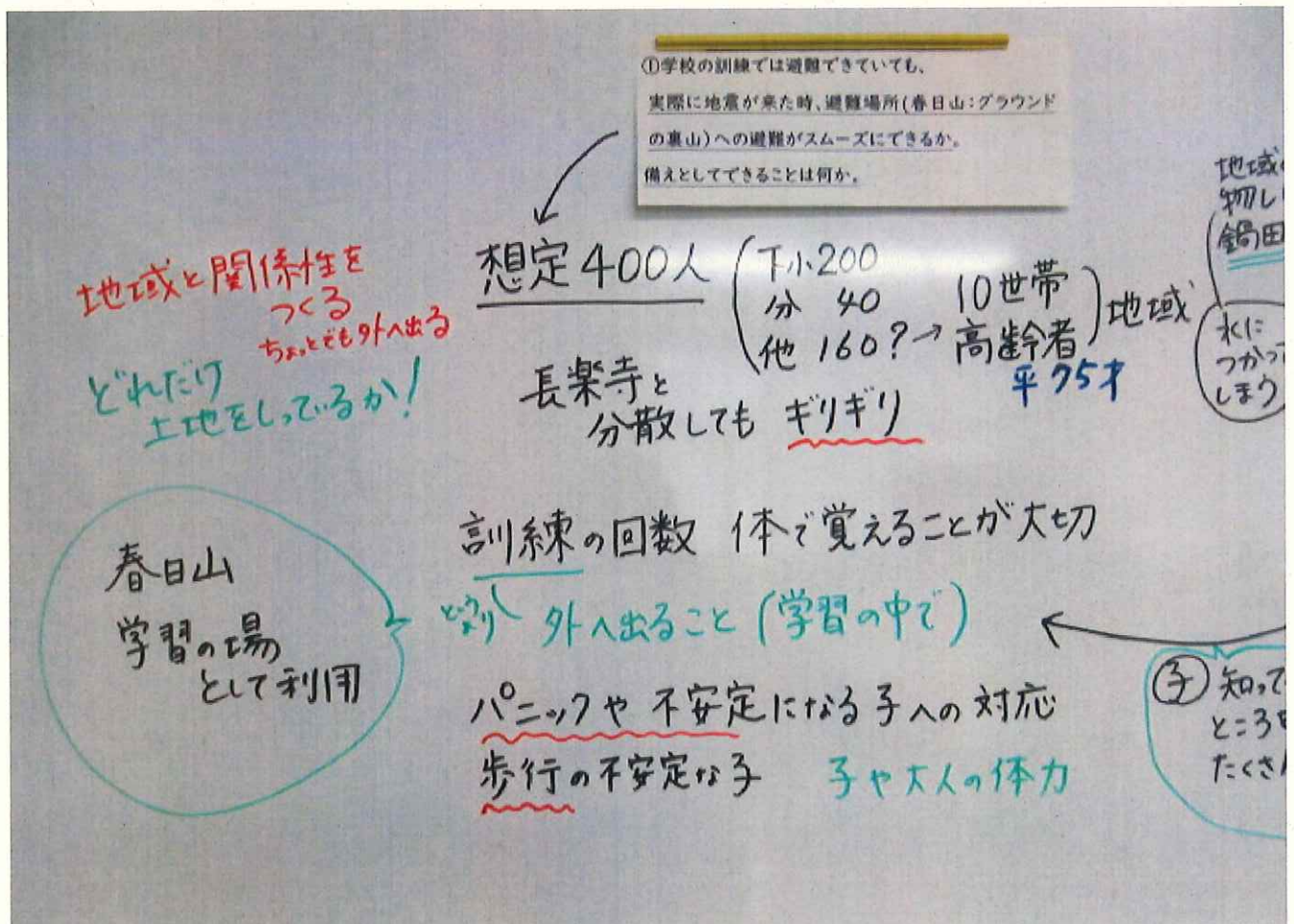
- ・ 校長より

防災に限定せず、学習活動の中でもっと積極的に地域に出で行き、地域の方と顔見知りになって一緒に活動したり、地域で（避難できそうな）丈夫な建物を探したりしていくことが必要。

行政にも、学校・保護者・地域で働きかけていく。

- ・ 連絡

次回の予定について



テーマ『地域と共に取り組む防災』

①実際に地震が来た時、
避難場所(春日山:グラウンド)
へ避難して安全を確保する。

②現在の地震発生時のマニュアル「避難場所(春日山)へ避難」→津波の恐れがなくなったら校舎に戻って保護者引渡しまたは学校で過ごす。
・春日山で、一定時間過ごすために必要なものや対策(ブルーシート・水・食料・非常電源・簡易トイレは春日山の倉庫に)
・春日山から校舎に戻れない状態の時の
具体策や必要な対応

③実際に地震が来た時、
観光客も、
伊豆下田分校
に取り組める

10世帯)地域
高齢者
平均75才

地域の人の
物しほ?
倉庫
水につかて
しまう

テント:簡易(トイレ用) 屋根がなところ

敷根への避難
現実には...
そこに行くまで

下田幼への避難難X

大テント
カッパはある

安全なところへ 高いところ 安全なところを探しておく

命がけでなければ

学校にとどまると
考えず

③ 知っている
ところを
たくさん見つけて
おく

学校の3Fは? 12mの波

屋上X

想定も考えておく必要 → 確認

春日山X → 折戸へ (12m)

渋滞

かけ上がる列 10分以内
歩く列

③実際に地震が来た時は、小学校、地域の方や
観光客も、一緒に避難する。
伊豆下田分校が、防災対策で地域住民の方と一緒に
取り組める活動や取り組みのアイデア。

春日山へ 地域の人と一緒に
渋滞をふせく" ルールをふれた訓練
顔見知りになっておく
積極的に地域人

防災
学習も
食と共に

敷根への避難
現実には...
そこに行くまでが低い

市への働きかけ

危機感のなさ

何かないと動かない、遅い

問題
だが

自助

自分の身は自分で守れ

行政を頼らず

子どもが高齢者を
助けるという考え
↓
実際には助けられ
ない
高齢者も自助!

分校の子も
力をつめて

分校・区・下小
みんなが
市を動かす

(市長・県→国へ働きかけある)